

Library News

図書館だより No.50
Nara National College of Technology

2000年12月 奈良工業高等専門学校図書館発行



情報工学科4年 轡 華代子さん

近年インターネットの普及で図書の情報検索手段も大きく変わっています。この分野の変化のうち、私が経験したことを書いてみます。4年程前にNHKラジオの深夜放送で、私に関心のある話と、その方の書かれた著作名を聞いたのですが、翌朝になってみると、内容は大筋覚えていたのですが、著者名も本のタイトルもすっかり忘れてしまっていました。このときはNHKに問い合わせたのですが、今ならパソコンで検索が出来ます。以前は読みたい本は大きい書店でたくさん並んでいる中から探していました。それもいまでは新たに出版される本の数が多いので、店頭には並ばない本も数多くあります。こんなときに、本当に読みたい本を探し、手にするにはどうすればよいでしょうか。

最近ではインターネットショッピングで読みたい本を探し、注文すれば短時間で本を手にするようになってきました。この方法は近くに本屋の無い地方や、体が不自由で外出がままならない人々にとっては画期的な変化をもたらす、身近なIT革命のひとつになる可能性があります。こんな時代になっても、読者にとっては、ネットで読みたい本を探すには、ある程度の慣れと工夫が必要なようです。検索にあたっては、書名・著者名とも不明な場合は、日本十進分類法(NDC)で見当をつけて、手当たり次第に調べるのが今でも基本かもしれません。

この夏、私が今関心をもっている、「障害者が書いた本」を探そうと試みました。そのときには、社会(社会福祉)に分類されていたり、日本文学の手記、ルポルタージュに入れられていたりして、検索が簡単でないことは明らかでした。そこで日本書籍出版協会に問い合わせたところでは、現在の分類法では「弁護士が書いた本」、「医者が書いた本」のような検索はできないとのことでした。ですから例えば、現在ヒットしている、女性弁護士が書いた『だから、あなたも生ぬいて』を検索しようと思っても、書名を忘れてしまえば、検索が難しいことになります。私が

目 次

巻頭言 「読みたい本をネットで探す」	物質化学工学科	井口高行	2
記念増刊号によせて			
大切な1冊の本	物質化学工学科	泉 生一郎	4
『技術屋(エンジニア)の心眼』	機械工学科	野々垣 稔	4
『ビルマの堅琴』を読んでいた頃	一般教科	北川誠之助	5
長い小説を読もう!	一般教科	木村 倫幸	5
図書館で英語を勉強する方法	一般教科	神澤 和明	6
最近の本棚から			7
祭りの秋は祭りを学ぼう!	図書係	福井 洋子	8
図書館を利用して			10
学生図書委員会の広場			12
読書週間行事・図書館からのお知らせなど			16

試み中では、キーワードを入力する方法とか、ジャンルを決めて、出版年が新しいものから古いものへ順に表示されるデータベースから選んで、内容を内容紹介文で調べながら、目的の本を見つける方法がよさそうでしたが、手間はかかりました。同様のことを国立国会図書館に問い合わせると「件名」に“身体障害者”を入力し、加えて「タイトル中の単語」に“記録”“いのち”“克服”など自分で思い浮かぶキーワードを加えて検索すると、網羅的にリスト化はできないまでも、何件か確認できるという返事がありました。確かに何件かは検索できましたが、結局完全な方法はなく、手間はかかってもいろいろな方法を組み合わせて、根気よく検索しなければならないというのが、この場合の結論でした。いろいろ試みている過程で、図書館流通センターのデータベースの入力が一番速やかで、内容紹介文も数行にまとめて載せられているので、利用するのに便利なこともわかりました。

読みたい本が決まって、次に書店で購入する場合でも、あらかじめ書店のホームページで、その本の有無、どの本棚に並んでいるかを確かめてから出かけるのがよいし、残り何冊の表示のある書店もあります。県立図書館などの一般の図書館を利用する場合でも、ホームページで本の有無とNDCを調べておけば、直ちに借り出せますし、その本がなくて、国会図書館にある場合には借りる手続きができます。

現在、インターネット書店はすでに10店以上あり、海外からも入って競争が始まろうとしています。それぞれが配達方法、送料、検索方法などで工夫がなされています。これらの中で、面白い検索方法と思ったものに、「元気の出る本」「感動する本」「頑張りたい気分になれる本」が検索できるような工夫のある書店もありました。ネット書店はまだ始まったばかりで、これからどう変化するか予測できませんが、注目しておく必要はあると思います。

主な出版社のURL

http://www.に続くURLを示します。

オーム社	ohmsha.co.jp/
コロナ社	coronasha.co.jp/
化学同人	kagakudojin.co.jp/
東京化学同人	5.medialgalaxy.co.jp/ tokyokagakudojin/index.html
共立出版	kyoritsu-pub.co.jp/
岩波書店	iwanamishoten.co.jp/
三省堂	books-sanseido.co.jp/

図書館関係機関・書店のURL

国立国会図書館	ndl.go.jp/
奈良県立図書館	library.pref.nara.jp/
日本書籍出版協会	books.or.jp/
T R C 図書館流通センター	trc.co.jp/trc-japa/
丸善	maruzen.co.jp/
紀伊國屋書店	kinokuniya.co.jp/
大学生協	kyoto-bauc.or.jp/shop/
アマゾン	amazon.co.jp/

記念増刊号によせて

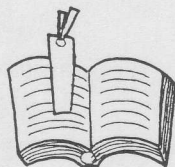
昭和54年に創刊の図書館だよりは今号で50号を数えるに至りました。そこで、50号を記念増刊号として、従来の形式にとらわれず読書の秋に因み、先生方から師や本との出会いや、本にまつわる懐かしい思いなどを自由に語って頂きました。

大切な一冊の本

物質化学工学科 泉 生一郎

私の大切な本の中に「私にとっての化学」(井本稔著、化学同人、1984年初版)がある。学生時代、この本の著者である恩師に厳しく叱られたことがある。「完全にその学問のことを知らないで、好きだとか、嫌いだとかいうのは、ただの甘え人間じゃないか」。当時の公害問題や大学紛争の中であって、化学に疑問を感じ、化学批判をしていた際に受けた忠告だが、この本の中に同じ内容の文章が書かれている。人は誉められて気を良くし、さらに成長への努力をしていくものだが、私は叱られて努力をするようになった。著名な化学者であって、暖かい人間味をもち、芸術と科学を尊敬する先生の人柄にあこがれていたからであろう。

ところで、この本の中に、「人間の進歩とは自然の仕組みを理解する道程であろう。・・・私たちのエネルギー問題解決の最後の手段は、植物の行う炭酸ガスと水からのデンプンやセルロースの合成のようなことだが、もっとつきすすめて言えば、炭酸ガスと水からメタンをつくることだ。」とある。これを読んだとき、私の脳裏に閃光が走った。そこには私自身が志向して納得できるヒントがあり、これまでやってきた研究との組み合わせがうまくいきそうに思えたからである。ゾクゾクする思いで始めた人工光合成、いわば人工木の葉の研究も、もう15年、今だ、初恋の気持ちで続けられるのはこの恩師とこの本にめぐまれたからであろう。



エンジニア 『技術屋の心眼』

E・S・ファーガソン 著

藤原良樹+砂田久吉:訳 (平凡社)

機械工学科 野々垣 稔

本書において著者ファーガソンは、工学設計の過程を詳細に検討し、設計の過程においては、数式や計算といった解析的なやり方だけではなく、直観や言葉には表せない思考といったものが重要な働きをしていることを、事例を豊富に引用して鮮やかに例証している。そして、直感や眼で見ての図像的な思考をも用いることによって優れた設計が可能になることが示され、心眼の重要性について強調している。心眼は、思い起こされた現実のイメージと思い描いた工夫のイメージが存在する場であり、信じられないほどの能力を持つ不思議な器官であり、技術屋そして芸術家にとって最も重要な器官である。また、本書でファーガソンは、ハッブル宇宙望遠鏡の故障、近代的なハートフォード体育館の屋根の崩壊、チャレンジャー(スペースシャトル)、スターク(イラク機のミサイル攻撃で大破したアメリカのフリゲート艦)、ヴィンセンスのイーゼス・システムなどの失敗例について言及し、そうした誤りは数学や計算の間違いではなく、技術判断——工学的科学や数学に還元できない判断——の誤りであることを指摘している。すなわち、技術者が必要とする教育の本質は、科学や数学の解析の道具は間違いなく必要であるけれども、より重要なことは健全な判断と適合性や妥当性に対する直感的な感覚を学生や若い技術者に育ませることであると指摘している。そして、教えるのが容易な解析的な「エンジニアリングサイエンス」を重視するあまり、経験豊かな技術者を育ててきた工業製図などの「技」の部

分の教育を遠ざけようとしている第二次大戦後の米国の工業教育の趨勢（まさに現在の日本の技術教育と同じ）を、ファーガソンは痛烈に批判している。

私は、高専における教育の真髄は、まさにファーガソンの言うところの心眼を育むところではないかと思う。ロボットコンテストは、まさに心眼の腕の見せどころの場であろう。近年、創造性教育が盛んに叫ばれるようになったが、本書から真の創造性の育み方の糸口が得られるであろう。本書は、エンジニアを志す人、工業教育に携わっている人、すなわち高専の学生諸君や教官の方々にはぜひ一読していただきたい内容である。

『ビルマの豎琴』を

読んでいた頃

一般教科 北川 誠之助

今から40数年前の中学一年生の時、図書係をしていた。ある日、図書室の先生から堺市の中学生で『ビルマの豎琴』の読書会があるので参加するように言われた。その頃『ビルマの豎琴』には縁があって、父が勤務する会社の映画会で見たし、ラジオの夏の名作朗読という番組で放送していたのを聞いてもいた。「水島、俺達と一緒に日本に帰ろう」という一節を聞いて、あ〜これはと惹かれるものがあったので気楽に引き受けた。

いい加減に読んだだけで読書会に出かけたら、何章かに分けて細かく感想を話し合うというのでえらいことになったと後悔したが後の祭、大して話すこともなく黙っていた。

しかし、中には堂々と意見を発表する者もいて、すごい生徒もいるもんだと感心したのを覚えている。三年後に入学した高校でそのすごいヤツと机を並べることになったのは奇縁。彼は教育学部に進学したが、感受性の豊かな良い先生になったと思う。

話を戻そう。僕があまりにも黙っているのでもうかねたのか、司会の先生が最後に「北川君、この本の何処に感動しましたか？」と質問された。僕は慌てて「部隊の全員が呼びかけても、水島上等兵は日本に帰らなかったことです。」と、もぐも

ぐ答えた……。

2, 3年前放映されたNHKのドキュメント『シリーズ太平洋戦争』に「インパール作戦」があった。ビルマ北部の山岳地帯からインドを攻めるインパール作戦は、物資の補給が出来ず失敗した。番組では、飢えと病気に苦しむ兵士達の地獄を映像で伝えていた。

この番組を見てから、『ビルマの豎琴』は作者・竹山道雄が絵はがきを見ながら描いた夏休みの美術の宿題のようなものだと思うようになった。こんな事を読書会の前に考えていたらあんなにドキドキ、ハラハラしなくてすんだのに。

しかし、この小説がたんに戦記物語ではなく、宗教や芸術が人間に及ぼす力、人間の生活と芸術の関係をも語っていると考えれば、それはそれで十分な気がする。読書会で、だんまりを決め込んでいた僕に心底困った表情をされた先生も既にこの世の人ではないと思う。そして「ビルマ」が「ミャンマー」といい改められて早や十年余が経つ。

長い小説を読もう！

一般教科 木村 倫幸

長い小説を読んでみませんか。人生は短いから、そんな時間は無駄に見えるけれども、実は、長い小説を読むと、もう一つ別の人生を送ったような気になるのです。

キラッと光ったり、チクッと刺したりする短編にも、人生の真実が含まれていますが、長い小説には、人生のさまざまな側面が、それこそ延々と映し出されています。そして最後まで読み通すこと自体が、そもそも人生の一側面となり得ます。

これまでにいろいろと長い小説に挑戦してきました。途中放棄もしばしばでしたが、何篇かは、しぶとく食らいついて、首尾よく読み通せました。そのときの感概は、ひとしおです。（まるで徹夜勉強をした後のようです、本当に。）読後に、いつの間にかその本のほとんどが忘れ去られているようでも、思いがけないときに、ストーリーの展開や印象的な諸場面が、ひょっこりと顔を出すこともあり、意外にいつまでも記憶に残っているものです。

というわけで、若くて元気と時間のあった時代には、古典的な長い小説に親しんできました。しかし近年はこれがなかなか難しく、野間宏の『青年の環』や大西巨人の『神聖喜劇』を読んでから、もう10年以上も経ってしまったのかと驚いています。

さらに現在のところ、金石範の『火山島』を読了していないことが心残りです。1～3巻は、刊行された1983年に読んだのですが、その後1996～7年に続きの4～7巻が出て、これについては手付かずに本箱に鎮座したままです。来年中には何とか、と思っていますが、鬼に笑われそうです。しかしこの焦りを含めて、長い小説の魅力があるのかもしれない。



図書館で英語を勉強する方法

一般教科 神澤 和明

「図書館は知識の宝庫」などとは言い古されたフレーズだが、実際図書館にはすぐれた教師がそろっている。もっともこの教師達は、学生が自分から訪ねて来て、その居場所を見つけ出さなくてはいけないし、うまく話を引き出さないと、ちっとも教えてくれない。でもこの先生方は学ぼうとする学生には決してえこひいきしない上、何年たっても年をとらない。だから私達はずっと年下の学生諸君に、自分と同じ先生の教えを乞うことを薦めることができる。「英文解釈」なら山崎先生、「英作文」なら原先生、「単語」なら赤尾先生にまず尋ねてごらん、と。参考書は自分なりにとことん使い込むもの、だから買うのが当然だけれど、何冊も買えない。それに相性というものがあるから、実際に使って試してみたい。だったら、図書館を利用しない手はない。自分に向けた先生を

見つけるコツは、一つの項目、文法ならたとえば「時制」「品詞」、英文解釈なら「仮主語」「関係代名詞」などについての説明を読んでみる。自分にわかりやすい説明をしてくれる先生がきつといる。

英語は暗号ではなく表現だ。言葉の意味を解明するためではなく、書かれている内容を楽しむことが英語を勉強する醍醐味、ということがわかるようになったら、小説を原文で読んでみよう。いきなり原書は無理だと思うなら、まず「対訳本」に挑戦する。コツは、意味がよくわからなくて良いからまず英文を通して読んで、それから右のページの日本語訳を見比べながら読み返すという、二度読みをすること。短編が良い。クリスティのミステリーが昔から定評がある。このおばさんは難しい言いまわしや単語を使わない上に、話し上手で飽きさせない。ヘミングウェイ・パパも、誰にもわかる英語しか使わない。

対訳ではないが、英米の若い読者向きに書き直してある本も、少ない単語で易しく書いてあるのどとつきやすい。レベルは使っている単語の数で分けてある。低いレベルのものから始めて自信をつけよう。自分の知っている話を選ぶといいだろう。

会話の先生を探しているなら、映画を観るのがいい。ヒアリングのコツは英語の音やリズムに慣れることにある。だから、わからなくても映画のセリフや歌を聞き流しているうちに、自分では気づかないが、力がついてゆく。欧米での外国語教育はこの「楽しんで身につく」システムをおおいに利用している。大切なのは続けることだ。

「英検」や「TOEIC」「TOEFL」の先生たちも待機している。留学するときや、会社に入ってから昇進試験代わりに受けさせられる英語の試験に備えるときに、とても力になってくれる。同じ先生に何度も繰り返し教えてもらうのがコツである。

専門的な難しいことを教えてくれる先生もいれば、雑談の多い気軽な先生もいる。できるだけ多くの先生に、図書館で出会ってほしい。

最近の本棚から

『乙武レポート』

乙武洋匡 (講談社)

物質化学工学科 井口 高行

乙武さんは両手両足の先がない障害者です。障害者にあまり関心のない人でも、乙武さんのことを、知っている人は多いと思います。テレビの『ニュースの森』でサブキャスターとして出演しておられたので、その番組を通して、あるいは前著の『五体不満足』を読まれた方もあるかもしれません。『五体不満足』を読んで、私は以前に何かの読書案内に乙武さんを「超健全障害者」と書いたことがあります。とにかく『五体不満足』の乙武さんは並みの健全者をはるかに超えた行動力の持ち主だということがよくわかりました。この人がテレビに出たのも手伝って『五体不満足』は350万部以上売れているそうです。因みに、あの『窓ぎわのトットちゃん』は579万部でしたが、追いつくかも知れません。

二作目の『乙武レポート』は、テレビ『ニュースの森』への出演記録の体裁をとっています。これも前作のように、明るく元気な乙武さんの障害者と思わせぬ、活躍ぶりをあらわしています。健全な大学生でもテレビニュースのサブキャスターを務めた例はない中で、乙武さんの活躍は、この本を、読めばよくわかりますし、前作ではほとんど触れてなかった、障害者ゆえの苦労話も今度は書かれています。読まれた方の中には、励まされたり、頑張ろうと思われた方も多いのではないのでしょうか。

乙武さん自身が『乙武レポート』で触れているように、櫻田淳氏(脳性小児麻痺にも負けず、元代議士秘書を務める。)は雑誌『諸君』(1999年6月号)のなかで「五体不満足をめぐる奇妙な論理」と題した批判とも受け取れる文章を発表しています。乙武さんはこれをかなり意識して『乙武レポート』を書いているように窺えることに注目したいと思います。櫻田氏の文章では「人間の人生は明と暗、陽と陰、清と濁、喜と哀、楽と苦の綾

をなすものであるけれども『五体不満足』は、その明・陽・楽の部分徹底して伝えることに特化した内容だ」、「本来、障害者=不幸で、暗いはずで、そうでないなら障害者の看板を降ろしなさい……。」本題から外れますのでここでは省略しますが、関心があれば、『諸君』を読んでください。

障害を持つ身の乙武さんが、ディレクターの宮澤さんと初出張に出て、風呂、トイレ、着替えの身の回りの世話をしてもらわねばならなかったときに、

「すみませんね、宮澤さん。」

「ああ、気にすんなよ。俺は、学生時代、ボート部で、ずっと合宿生活だったんだ。だから男の裸なんて慣れっこ。全然気になんねえよ。」

そうは言ってもやはり気を使う。友だちや恋人ならば、世話をすることを承知の上で、私を選ばなり、私から離れたりできるが、宮澤さんの場合は、まったくの仕事。テレビ局に入って、他人のケツを拭かされるとは、思ってもみなかったはずだ。と悩んだ乙武さんでした。

これから半年くらいして、「俺、再来週から1週間くらい休み取ろうと思ってるんだけど、一緒にどこか行くか?」と、宮澤さんに声をかけられて極寒のニューヨークに出かけることになった。寒さで旅行としては最低だったようだが、同時に最高の旅をしたと書いている。「今回は仕事ではない。休暇中、まったくのプライベートな時間だ。誰と何をしても良い時間に宮澤さんは、私を誘ってくれた。着替え、風呂、トイレ。すべてを世話しなければならぬ私を誘ってくれた。それは、仕事で嫌々付き合ってくれているのではなく、個人として付き合っている証だ。仕事仲間が友人となったことを再確認できた旅として、私には忘れることのできない1週間となった。」このくだりは乙武さんの世界がまた広がった出来事だったと、読んでいて思いました。

『朗読者』

ベルンハルト・シュリンク著

松永美穂:訳 (新潮社)

図書係 福井 洋子

今年いちばん話題になった本というので、早速読んでみました。時は、1960年代。ひとくちで言えば15歳に始まる、少年と21歳も年上の女性とのラブ・ロマンスです。突然の恋人の失踪。謎めく恋人は実はあの忌まわしい強制収容所の女性看守だったのです。軍事裁判にかけられた彼女と、研修司法生となった少年は裁判の席で再会します。裁判の過程で彼は彼女が文盲であることに

気づきます。彼は刑に服する彼女のもとに十年間朗読テープを送り続け、ついに彼女は文字を学び、拙いながらも彼の元に手紙を寄越すまでになります……。この衝撃的な物語の展開、結末は社会性をも孕み、深い感動を覚えない人などきつとしないことと思います。

この作品は「リプリー」の映画監督であるアンソニー・ミンゲラがすでに映画化権を買っているということですので、そのうち映画作品としても鑑賞できるようです。今から楽しみにしています。

祭りの秋は祭りを学ぼう！



秋祭りの行方

炎の色で畦道を彩っていた彼岸花もいつの間にか姿を消した。穂を垂れて取り入れを待つばかりの稲群は輝いて、あたかも黄金の国ジパングを彷彿させる。スーパーでは収穫の早い北国から新米が届き、秋の味覚とともに店頭に並び始めていよいよ恐ろしい(?)本格的な食欲の秋に突入した。そんな十月半ばのある日、わが家で、この秋最大のイベント・秋祭りが執り行われた。祭礼を行う講の(宮講、宮座のこと)人たちが神社や頭屋の家に集い、お祈りし御幣を作り、直会(なおらい)と称する会食をしたのち御幣を神社に奉納するというものである。その祭りの頭屋が今年わが家に廻ってきている。

暮らしのすべてが農業中心という時代は過去のものとなり、祭典の中身も随分簡素化された。けれども頭屋となると、九月末の仮宮作り、十月一日の朔日座(ついたちざ)を経て十三、十四日の宵宮、本祭りとなればそれが抜けない。持ち回る祭典道具の中には、寛政の文字の入った巻物もあるから、村で行われている催しの中でも最も古い行事の一つであろう。五穀豊穰を祈り祝う秋祭りは、かつてはどんな小さな村でも行われてきたはずだが、時代が代わり、祭りの意義が不明確になって近郷の村々では消滅しつつあると聞く。

現に私の村の宮講でも近年脱退する家が増え明治の初め頃には十三軒だったという講中が今や五軒という寂しさだ。次ぎの世代には存続が危ぶまれている。正に風前の灯し火というところだ。先祖から営々と伝えられた伝統行事は残してゆかねばとは思ふ。

けれども五年毎の頭屋という現実には思わずため息が出そうになる。祭りを終え、ほっと安堵するもののわが祭りの行方は茫洋としてつかめない……。 (ある日の日記より)

ところで皆さんの町や村の秋祭りはどんなでしょう。社会科の宿題のつもりでお爺さんやお婆さん、ご近所のお年寄りに聞いてみたら案外面いことが分かったり、新しい発見をしたりするかも知れません。

本校の図書館にも祭りや民俗学に関する図書がたくさんありますので、興味のある人は読んで下さい。面白そうなものを数点紹介します。

1. 大和の祭り 高田健一郎 (著) 向陽書房

大和地方に伝わる様々な祭りを、カラー写真を添えて解説してあります。桜井市江包のお綱祭り、高田の亥の子の暴れ祭り、御所市の野口神社の汁かけ祭り、橿原市地黄町のスミつけ祭り、北葛城郡河合町広瀬神社の砂かけ祭りなど・・・不思議なお祭りがいっぱい。

2. 泊瀬川の祭りと伝承 桜井 満/上野 誠 (編) 桜楓社

泊瀬 (長谷) に伝わる信仰・祭り・伝承を研究。

3. 葛城山の祭りと伝承 桜井 満/大石泰夫 (編) 桜楓社

4. 祈りの舞 春日若宮おん祭り 永島福太郎他 (著) 東方出版

900年近く続いた春日若宮おん祭りには庶民の願いが込められています。王朝からの風俗、古典芸能に興味のある人は見逃せません。

5. 日本の奇祭 合田一道 (著) 青弓社

尻振り祭り、一夜官女祭り、泣き相撲、寒中みそぎなど、日本各地で受け継がれている奇祭を巡り、人々の生活を紹介しています。なぜこんな滑稽な祭りがあるのでしょうか。なんで?なんで?

6. 祭礼事典・奈良県 奈良県祭礼研究会編 桜楓社

7. 世界の祭り1~9 西田 敬 (写真・文) 大日本図書 など

(図書係 福井 洋子)



砂かけ祭り 広瀬神社 (北葛城郡河合町)



汁かけ祭り 野口神社 (御所市蛇穴)

『大和の祭り』より



お綱祭り
素盞鳴神社 (桜井市江包)
この神事は県の無形民俗文化財に指定されています

図書館を利用して

僕にとっての奈良高専図書館

情報工学科4年 フィデンス

僕にとっては、図書館とは無料で様々な情報を提供する組織であり、その存在は教育に不可欠な要素です。時代が変わるとともに、図書館が提供する情報の形は変わりつつあります。文献だけでなく、音声や画像やデジタル・アナログの形で保存される情報も提供することはこれからの図書館の新標準になるでしょう。

ここで、奈良高専の図書館について意見や改善してほしい所などを少し考えましょう。ビデオやLDの集団、そしてインターネットに接続されている3台の端末が備えられており、図書館が提供する情報種類をさらに豊かにしています。自分が好きな映画やビデオなどを見ることができ、インターネットで情報を探ることが可能になり、ようやくマルチメディア図書館になりつつあるんじゃないかと思います。けれども、専門家の卵である僕は不満を感じます。人の教育レベルが高くなると当然学ぶことは狭くなる。そのとき、専門書は必要となります。奈良高専の図書館にはあまりにも専門書の数が少ないと僕は思います。そして、ちょっと気になるのはなぜ「専門学校」という名前がついているにもかかわらずこの学校には専門書はこんなにも少ないのでしょうか。図書館の中を眺めてみると、専門書より一般書の方が多いです。各学科棟には専門書も置かれているが、数はそんなに多くありません。さらに、一応僕が知っているのは僕の学科、すなわち情報工学科の方では、並んでいる本の中にはあまり役に立たない古い本がかなりあります。

また、日本語に翻訳された洋書は沢山あります。図書館でもそういう本を買っています。その中には丁寧に翻訳されたものもあるが、わかりにくい本も沢山あります。やはり、翻訳を読むよりも原書を読んだ方が著者の意思をつかみやすいと思います。だから、専門書だけでなく、専門洋書も増やしてほしいと思います。

奈良高専の図書館について

機械制御専攻1年 今井 英貴

舞鶴高専を卒業して、本校の専攻科で学ぶようになり早くも半年が経ちました。その間様々な人達の助けによって新しい環境にも慣れてきました。それでも当初は驚くことが沢山ありました。そこで、他高専からきた者として奈良高専の印象を二・三述べたいと思います。

まず第一に挙げられるのが、奈良高専の学生の勤勉さです。勉強や部活に励む姿を見て大変刺激を受けています。図書館に関して言えば、館内の専門書の多さ、利用している人の数に驚きました。図書館の貸出冊数が全国高専の上位だということを知って、さもあらんと納得しました。

私は少ないながらも本を読み始めたのが、一人暮らしを始めた十八歳ぐらいからです。ですから図書館で低学年の学生が友達とともに読書したり、学んだりしている姿を見るとなんてすばらしいのだろう、と思うのです。

しかし同時に、奈良高専の図書館でのマナーの悪さには驚かされました。私語、館内での飲食、携帯電話を使用しておしゃべり…などを目にします。

私は過去一度も他の公共図書館で飲食したり、携帯を使っている人をみたことがないというのも事実であります。(単に利用回数が少ないだけ?) いずれにしても図書館本来のあり方について考え、この状況を改善したいと思っている人が多ければ私としては大変嬉しいです。

しかし、今までもそうだったしこのままがいいと多くの方が思われるなら「先生方の手によって無理に変えられたり、規則を作られたりする必要はない。」と私は思います。なぜなら学生のための図書館なのですから。

ところで余談になりますが、『朱に交われば赤くなる』という諺があります。私はこの言葉は本当だと、自らの経験から思います。このことは良い事にも悪い事にも言えます。「周りのみんながする

から館内で飲食したり、おしゃべりしたりする」のではなく、「みんながそれぞれ頑張っているから僕も」ということになればとてもいいことだと思います。奈良高専にきて、何事にも努力をし、勉強もでき社会適性のある人達に出会い、やっぱりすごいなと感動しました。奈良高専の学生たち誰もがみなそのような素質を持っていると思います。だからこそ、図書館に来られた一般利用者の方々が、かつて私が奈良高専に来た当初のような気持ちになれるならとても残念な気がします。良識のあるいい学校であり、そして気持ちよく利用できる図書館であって欲しいと思います。またそうした奈良高専で学べる事に誇りを持ちたいと思うのです。

ニュージーランドの図書館

電子制御工学専攻2年 藤森 文夫

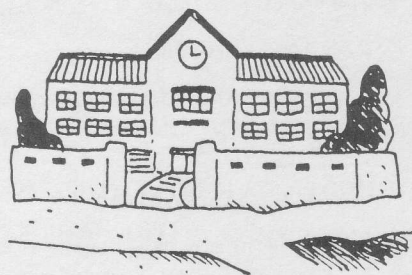
図書館だよりも、外国の図書館のこと書いてと言われたので、書きますがこれは、あくまで僕の感想でしかないことをあらかじめ断っておきます。実際には全く違っているのかも知れません。僕が利用していた図書館は、ニュージーランドのクライストチャーチにあり、その都市では、一番大きな図書館でした。4階立ての建物でそのうち、僕等が利用できるのは3階まででした。1階に受け付け、返却、会員、貸し出しそれと子供用カウンターがありました。会員になるためのカウンターがあり、そこで会員になれば、初め1、2週間は2冊だけ借りることができ、その後住んでるところにカードが送られて来てそれを使うと1人あたり、20冊まで借りられます。期間は4週間でした。

一度にそれほどたくさんは借りませんでした。いくらでも借りることができるという余裕で、とても気持ちよく本を読めました。本の外に雑誌やCDそれにVDまで貸し出していました。さすがにCD等は有料で100円/週ぐらいだったと思います。僕が図書館でお金を払ったのは、テープを借りたときとパソコンを使ってメールを送ったときだけでした。パソコンは10台以上あったの

ですがメールが送れるのは、そのうちたったの2台で、残りは行き先限定で待つこともしばしばありました。新聞が1年分ぐらい4、5社ぐらいのをとってあるので、資料を調べる人にとっては、便利だったんじゃないでしょうか。

一番興味を引いたのは、図書館本の販売でした。ちょっと痛んだものや、古びてしまったものなどが月に一回売られていました。何冊かそこで買ってきました。安いのは25円、一番高いのも150円と、とても安かったです。もちろん図書館で借りられる本だから、買う必要はなかったかもしれませんが。図書館のやってる時間帯は平日9時から8時まで土日は午後だけだったと思います。返却は返却の箱にほうり込むだけで、外からでも、閉館後でもいつでも返却できます。ただ返却期限を過ぎると罰金を払う必要があります。

また、無人の貸し出し機があるので並ぶ必要がなかったように思います。使い方が分からなかったのも、初めは世話してもらったりもしました。子どもの遊び場もあり、大人の人がそこで子どもを遊ばせておいて、自分の本を選ぶことが出来るようなシステムでした。子どもには子ども用のもの、また字が読めない大人用にも本が用意してありました。国際化を反映しているのかあらゆる国(日本語も)の言葉の本があり、また利用者にもいろんな国の人達がいたようです。そのことと関係あるのかないのかは分かりませんが、警備員のおじさんはそれはそれはとても顔の怖い人でした。

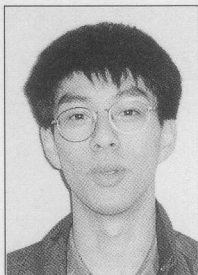


学生図書委員会の広場

図書館利用法

電子制御工学5年 南崎 嘉伸

自分の図書館の利用法それは『本を借りる』ずばりそのままである。しかし、何といてもこれが図書館の基本であると思う。いろんな本を読みたい、出会いたいと思っていても自分で買うとなるとそうもいなくなる。



そこで図書館の登場である。図書館なら自分の見たい本を見つけて読むことができるし、なにより自分の読んだ事のないジャンルの本にも気軽に挑戦できるのがいい。自分も最初の頃は好きなファンタジー小説や推理小説を読みあさっていたが、だいたい読みたいような本は読んでしまったとなった時にせいかくだからあまり自分から読むとは思ってなかった本も読んでみようかと思っっている本に挑戦してみた。ベストセラーになったような有名な本をはじめ、映画の原作本、

人間性を考えさせるような本、歴史ものなど読はじめるとなかなか面白いものである。中には読んでも(?)となるようなよく分からんものもあったが、電車の中なのに思わず泣きそうになってしまった(というより涙こぼれてた)ような本にも出会える事ができた。

TVや音楽もいいが本には本でしか味わえない何か力があるように思う。そこで、本に出会う機会はいろいろとあると思うが図書館は学校生活の中で一番多くの数と種類の本に出会える場所である。本を読むこと自体苦手な人もいると思うが一度図書館に足を運んでみて何でもいから本達と向かい合ってみてほしい。また、本をよく読んでる人も今まで見てなかった種類の本にも挑戦する事で何か新しいものに気付かされるかもしれない。

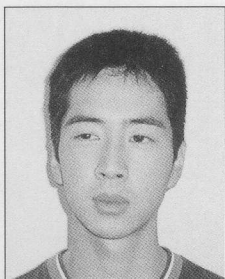
最後に、数々の専門書たちには実験のレポートをはじめ毎度よくお世話になってます。

若者達の読書紹介

『5分後の世界』 (村上 龍)

機械工学科3年 栗田 和幸

主人公はふと気づくと別の世界にいた。まわりはすべて日系の混血児。そこは準日本人の資格を得るための試験会場だった。みんな時計は正確でとてもきれいな日本語を話す。主人公の5分おくれた時計や、やくざなしゃべり方は試験官までも驚かせる。主人公は本物の日本人に連れられて、本物の日本に行くことになった。ここはどこだろう。オールドトウキョウ?日本人ゲリラ?戦争しているらしかった。

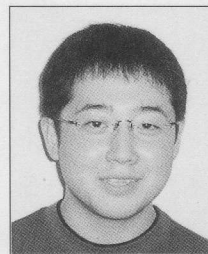


『バトルロワイヤル』 (高見 広春)

電子制御工学1年 山口 哲史

この本はかなりヤバイです。正月に映画化されたのが公開されるようですがR指定がつけづらいです。

この本は、日本が敗戦してなくて現在に至っている設定で作者がフィクションとして書き上げた物語です。内容は正味、軍の人が中学3年生を対象に、ある一定の仕切られた土地で殺し合いをさせてその反応を見る、という残酷なストーリーです。この本を読んでいて(読んだ時がちょうど中3ということもあって)自分がもしその場に行かなければならなくなったらどんな気持ちになり、どのような行動をとるのかを考えさせられるというか、考



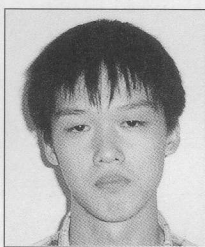
えてしまう本です。自分が殺らなければ人に殺られるという現状の中で、登場人物の心の変化がとてもはっきり読みとることができます。

この本を読んでどう思うかは人それぞれだろうけど、僕はこの本で、紛争などが起きている地域に比べてあまりにも平和な日本ではたぶん感じることをできない人を殺めるということの恐ろしさを知りました。

『塚田詰め将棋』

電気工学科3年 辻本直生

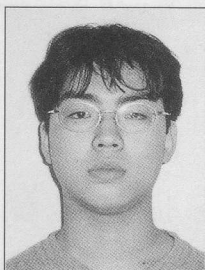
塚田詰め将棋代表作を読んだ。今ではあまりつくられない長手数変化の問いがたくさんあり難易度は高いが、それだけに解けたときは手ごたえがあり楽しい。



『新幹線を作った男』 (島 秀雄)

機械工学科4年 黒田行宏

この本に私が出会ったのは新聞の1面でした。普段ならこのような本に興味をもつ私ではないのですが、その先日NHKの社会情報番組のプロジェクトXで新幹線をやっていたこともあり、買ってしまった1冊です。



「世界最速の超特急」 「時速210km」

当時の人々はこのフレーズに驚嘆しました。日本人の生活を根底から覆すこの超特急のプロジェクトは困難の連続だったそうです。それに挑んだ技術者、島秀雄の人生の物語をこの本は余すところ無く書ききっています。そして、新幹線のプロジェクトがいかなるものであったかということも訴えています。

新幹線の存在はわれわれの生活にとって、当たり前のことになってしまいました。そのようなものは世の中にたくさんあります。当たり前になっているそのこと自体は良いと思います。しかし、その陰の人々の努力は忘れてはいけな

いのでしょうか。こんなことがあったということを知って再び夢を持ってみてもいいと思います。

都市シリーズ

『奏(騒)楽都市OSAKA』

上・下巻 (川上稔)

情報工学科5年 中井 伸郎 ・ 林 誠悟

最近、読みごたえのある本を読んでいますか？この「奏(騒)楽都市OSAKA」はかなり読み応えがあります。上巻380頁、下巻はそれを上回る470頁とボリュームだけで結構なものだけどすごいのはページ数だけではありません。

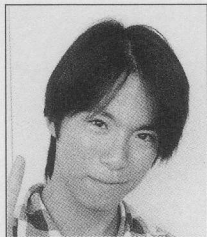
この本はあらすじを、読んでも何がなんだかちんぷんかんぷんです。しかしその独特な世界観こそが川上稔テイストであって、最大の売りなのです。しかも物語を進めるときに説明書きが一切無く、専門用語やら当て字やらが初っ端からバシバシ出てくるので3頁読んでは2頁戻って……の繰り返しです。

最初の100頁でゴミ箱に捨てたい衝動に駆られ、次の100頁は訳が分からないまま進み、最後の200頁でやっと世界観が理解でき、下巻では上巻の時と考えられないくらいすらすら読めるようになります。もうなんというかこの本は、「読み切れるもんなら読んでみる」と言っているような気がしてならない本ですが、それらを征服……もとい、読み切ったとき自分という人間は世界で一番偉い人なんじゃないかと思わせてくれます。少なくともこのときに我々は達成感を感じました。これだけ罵詈雑言を並べてはいますが、世界観設定が理解できればとても面白い小説であるといえます。いや、ホントに。この本を読む事により国語がさっばりの我らに「どんなに難しい文章でも何回も読んだら理解できるようになる」という事を教えてくれました。皆さんも是非、挑戦して下さい。多分この人の作品を2度と読みたく無くなるでしょうけど。けど、こんな事を思いながらもこの都市シリーズを買い続けています。読んでないのが3冊ほどあるけど(笑)。だってこのシリーズ、読むのに気力要んねんもん。

『空想科学読本3』（柳田 理科雄）

機械工学科4年 森 満 帆

今までいろいろな空想科学について、「これが本当に起こったらどうなるのだろうか？」という素朴？な疑問に答えてきた空想科学読本シリーズも「空想科学読本1」



「2」「空想科学論争」と来てついにこの前4作目の「空想科学読本3」が発行されました。これまでの3作でウルトラマンのゼットンが放つ一兆度の火球はどんなものなのか！タケコプターで飛ぼうとしたらなにが起こるのか！どこでもドアでこんなことをしたら！！…ゴルゴ13が2kmも離れた所からターゲットを撃ち殺すには？はたして空想科学でだれが一番強いのか！…などなど数々の疑問を検証していくと恐るべき事実があきらかになってきた。

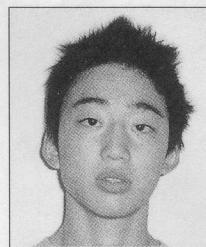
新しくでた「3」ではハイジの乗っている大ブランコはジェットコースターよりも怖く、イルカに乗ったトリトンが七つの海を環流し、津波から東京を守ったウルトラマンは千葉を滅ぼす。宇宙コロニーは実はものすごく危険な空間だった。ビー

ムサーベルを実用化すると…などなど驚愕の新事実が明らかとなった。この爆笑ものの事実を見て笑ってくれ！！

『しかくい心がまるくなる心理学』

電子制御工学科2年 濱 添 亮

この本の謳い文句は「考え次第でもっと気楽に生きられる」ということですが、別に僕は人生に悩んでいたわけではないです。たまたま、親父の机の上に乗っていたので気になって何気なしに読んでみました。



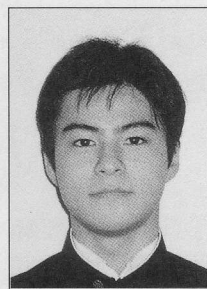
この本によると世の中は色即是空と見ることによって気楽に生きていけるらしいです。たとえば、病気になったときにその事とことん悪く思いつめる事もできるし、休養のチャンスと考える事もできるということらしいです。こういうふうの一つの事でもいろいろな見方があるということは僕も同感です。どうせなら、自分に得な見方をしたいと思います。ぜひこの本を読んでみてください。たぶんこれまで損してたとはいえず。PHP出版社からお値段は1100円です。

図書館だよりを振り返る

初期の図書館だよりを読んで

機械工学科3年 山野井 祐 太

図書館だよりが初めて発行されたのは1979年1月のことだそうです。1979年といえば私がまだ生まれる前でリアルタイムで時を過ごしてきたわけではありませんが、石油ショックによる不景気から脱出した頃だと本に書いてありました。このような時期に発行された図書館だよりはいったいどのような内容だったのでしょうか？



早速内容を見てみましょう。

図書館だよりは現在のA4用紙、数ページのカラー印刷ではなく、一回り小さいB5用紙に白

黒印刷という簡素な図書館だよりでした。

第1号の内容は巻頭に当時の校長の寄稿文。それに続いて当時の先生が書かれた文章や新着図書を紹介が延々数ページ続くという内容でした。第2号以降からは学生（機械工学科でも2クラスあるんですね）からの読書感想文や当時の先生方から寄稿していただいた文章が増えてきます。当時は学生からの投稿（??????）が多く感じられました。また書かれている文章から当時の世相といつかそういったものが読みとれる場合があり、（たとえば、ある先生は‘当時の’最近のマンガの発展ぶりを見て、「マンガなどホンモノではない！小説こそがホンモノである」と書いてあった。これをどう思うかは各個人の受け取りかたではあ

るが、とにかく我が図書館にもマンガが置かれるようになっており、つくづく時代は変わるものだなと思った。その辺りも非常に面白かったです。第1号から10号くらいまでを読んだ限りでは、当時の主な内容は、学生からの読書感想文コンクール优秀作品や先生方からの寄稿、また図書館の利用の仕方などでした。私のような図書委員としては、図書委員会からのお知らせのページが用意されていない事は少し残念でした。

過去の図書館だよりを読んで

物質化学工学科4年

山田 有香 ・ 遠山 麻依

私達は今回のこの記事を書くに当たって、1989～1992年の図書館だよりを読ませていただきました。このような機会でもない限り、なかなか過去の図書館だよりを読む事なんてないでしょう。



さて、そのころの図書館だよりはどのようなものだったのでしょうか。私達の勝手な見解かも知れませんが、その報告をさせていただきます。

私達がまだランドセルを背負っていた頃の図書館だよりは、今とは少し違った形式をしていました。まず目につくのはボリューム。今では約20ページに及ぶもので、しかもサイズはA4をほこる図書館だよりであります。当時はその半分の約10ページ、そしてサイズはB5でした。次に読みやすさ。今は、表紙・目次・イラストなどがカラーでとっても読みやすくなっていますが、当時はそれらがなく字ばかりぎっしり書かれていて、何かあっけらかんとしていて、ちょっと読みにくいような、かたくるしいようなものでした。しかし、注目すべきは内容です。「まんが読みまくり大会がしたい」などという学生の声があったりして、今も昔もあまり学生は変わってないんだなという印象を受けました。このように、過去の図

書館だよりを読んでいくにつれて、何やら未来の図書館だよりが見えてきたような気がします。表紙がもっと上質の紙になっていたり、全ページカラーになっていたり・・・でもきっと、学生の声は今とあんまり変わらないんじゃないでしょうか？ 図書館だよりにはそれを作る人の地道な努力が詰まっていて、随所にそれが見て取れます。あなたも一度、昔の図書館だよりを読んでみませんか？ 何か新しい楽しみが見つかるかもしれませんよ。(先生方の若い時の写真とか・・・)

最近の図書館だよりの傾向

電子制御工学科3年 深江 輝昭

99年度にかけての図書館だよりの傾向を見ていきたいと思えます。さて、図書委員の先生の有り難いお言葉は相変わらず続いておりますが、少し昔と比べまして使っている紙の大きさが増えた分、見やすくはなっています(決して文章の長さが変わったとは思いませんが)。これが大きくなった分、学生(私も含めて)の鞆に入りにくくなったと言えないこともないですが、きっと良いことのはずです。最近になってカラーページ(表紙とグラフ)が出てきましたが、その内挿し絵でも入ればいいですね。読書感想文がページの半分以上を占めているものも多いですが、仕方ないでしょう。人が読んでいる本は結構昔(とはいえ、私が参考にしたのはここ五年間のものですが)から大して変わりがありません。真面目な本が半分に、物語(少し変な本も含む)が半分。感想文を選ぶ先生方が、何を見て選ぶかによりますし、人によってそれほど文章力に差があるとは思えません。それと、ブックハンティング情報があるのは良いですね。何を仕入れたのか、知らないと借りに来ないわけですから。

さて、昔と今とを比べて、何が最も変わったかといえば、やはり大きさが気になります。大きくなって、確かに文章の幅は広くなりましたけど、何を書くのか、或いは書き方のようなものが変化してなくて、見る側に回ってみまして、少し見にくいような気がします。文章或いは紙面)を枠などで囲ってみた方が何となく見やすいような気がする今回でした。

読書週間行事

マンガで覗こう、古典文学の世界！

図書館委員会では、20世紀最後の読書週間を、「マンガで覗こう、古典文学の世界」をテーマとして平成12年10月30日より11月10日まで、関連書籍の展示・行事を行いました。

展示では、代表的な古典文学全集と、マンガ日本の古典文学全集(全34巻)を対比させ、古典文学に親んでもらう工夫をしました。図書委員の先生方の、代表作の要約や感想文なども興味を引くものとなりました。緩やかな究極目的としては古典に親しもうということだったのですが、目的は達することができたかどうかは？マークです。

展示期間中は、マンガを手にして動かない学生達も多く見られました。展示期間終了後の今もマンガ日本の古典文学全集を読破しつつある学生が数名いることはまあ、喜ばしいことでしょうか。展示と同時に「あなたはマンガ派？それとも文学派？」のアンケート調査も行いました。アンケート結果では、マンガ党がやや優勢といったところですが、「マンガは原作があってこそ！」「マンガは限界がある」などという頼もしい文学擁護論もありました。21世紀には、さてどんな表現形式が主流となってゆくののでしょうか。

また、読書週間行事の一環として、11月9日(木)LR教室で神澤先生指導のもと、教職員、学生に分かれて「文学か？マンガか？」や、「進学か？就職か？」などのテーマで「ディベート大会」を行いました。残念ながら当日は、高専祭準備等で学生参加者は少なかったのですが、参加者一同は、自分の主義主張とは反対の立場から討論するという、初めてのとても不思議な経験をしました。

奈良高専初！

校内ディベート大会

あも言う、こうも言う。攻撃も防御も
まかせとけ！
最強の「弁論戦士」は誰だ？

とき：11月9日(木) 15:30~16:30
ところ：LR教室
主催：図書館委員会
話題：「マンガか？ 文学か？」

参加者を募る！飛び入り歓迎！

読書週間

10月30日(月)~11月10日(金)

~マンガで覗く古典の世界~



図書館からのお知らせ

冬期休業中の図書館利用について

- ・開館日時 12月25日・26日・1月5日 8:30~17:00
土日・夜間開館はありません。
- ・閉館日 12月27日~1月4日
- ・貸出冊数 6冊

編集後記

近頃の携帯でのメールの情報は迅速、時・場所を選ばないことで、若者の感覚にピッタリのようなのですが、メールの付き合いは上辺だけに流れがちではないでしょうか。手紙で含蓄のある言葉を考えるのに頭を使ったのは昔のことになってしまいました。たまには図書館で思索にふけるゆとりが欲しいものです。図書館だよりは図書館を利用してもらう契機となることを願って発行しています。今回の50号は例年の2回発行に加えた記念増刊号です。多くの先生方、学生諸君の協力で発行できました。忙しい中での特別記念号のために寄稿下さった先生方に、そして自分たちのページづくりに参加して図書館だよりをより若々しいものにしてくれた学生諸君に深く感謝します。

図書館委員会

奈良工業高等専門学校図書館 〒639-1080 大和郡山市矢田町22 TEL 0743-55-6015

URL <http://library.nara-k.ac.jp/>